



フォレスターうじ 会報

第292号
令和5年6月1日発行
森林ボランティア
フォレスターうじ

ホームページ : <https://forester.foresteruji.org>

会長挨拶

天ヶ瀬森林公園の保全

「子供も大人もまた行きたい、

と思う森林公園を目指して」

令和五年度会長 林 幸広

天ヶ瀬森林公園の森林は、昔は薪炭林として活用されていた、いわゆる里山です。コナラなどの落葉樹を植え、十五〜二十五年周期で小規模に皆伐し、萌芽更新して成長した約二十年後にまた皆伐する、という周期を繰り返していたと思われる。そのため、若くて樹高の低い小径木からなる明るい森の状態が保たれ、生物多様性の高い状態が維持されていたと思われます。

戦後、薪炭からガスに燃料が替わり、里山は放置されるようになりました。その後、松枯れにより赤松が激減し、空いた空間でコナラが大径、高木となって暗くなり、林床には耐陰性の常緑樹やササ、シダの類が繁茂して中低木は育ちにくくなりました。さらに実生や萌芽更新の芽は鹿の食害に合い、若い木が育たず老齢化が進み、シイなどの常緑樹が優勢となってさらに暗い森になり、生物多様性は失われてきています。

また、ナラ枯れを引き起こす病原菌を媒介するカシノナガキクイムシ(以下カシナガ)が繁殖しやすい環境になっています。カシナガは直径30cm以上ある大径木に穿入しやすいためリスクを高めています。

里山の保全とは、高木を間引いて日の差すギャップを作り、そこに苗を育て鹿の食害から守り、多様な豊かな森にしておくことです。また、公園ですから市民の利用を促すことも必要で、そのために森の散策を楽しめる様な道と景観づくりも求められます。そうやって、「気持ちいいな、また

来たいな」と思ってもらえる森林公園にしていきたいと思えます。



5・21 緑に覆われた散策路(モミジの道)



5/21 実態調査、枯木に印をつける(眺望の道)



5/21 記念樹十選ユリノキに樹名板(憩の広場)

五月定例活動

森林公園の実態調査、

チルホールを使った伐採作業、他

活動日 五月二十一日(日) 晴

活動時間 九時三十分〜一時三十分

活動場所 天ヶ瀬森林公園

参加者 会員十九名

京都府立大学森なかま 前田さん 大澄君

一日体験 隅田さん

歩くと少し汗ばむ気持ちの良い日となりました。午前中は、A班とB班に分かれて、森林公園の実態調査と二十五周年記念樹十選の樹名板の取付けを行いました。樹名板は、森なかまのみなさんが大変立派なものを作ってくださいましたので、森の中でもハイカーの方々の目に留まることと思います。場所は総会資料にも掲載されているので、参考にしてください。

実態調査では、「枯れた松が多かったなあ。」という印象を受けました。二十年程前に松林の整備を行ったところの松がずいぶん枯れていました。歩道沿いも日の当たらない所がたくさんありました。全体として、ソヨゴ、アセビ、アラカシといった常緑樹葉が主流で、松の枯れたところはコナラ、ソヨゴが多い森林になっていました。そんな中、エゴノキの花がたくさん咲いていたり、ヤマモモの原木があったり、モチツツジやリョウブといった春に花の咲く木もたくさん見られました。何かの記念で植えたであろう桜の木も大きくなっていました。整備は必要ですが、季節を楽しむことのできる散策路の復活も可能なように思いました。

このように今回の実態調査で「整備をすれば、気持ちの良い森林になるところがたくさんある。」ということがわかりました。ただ、フォレスターうじで整

備するにはあまりにも広大なので、「整備する範囲を絞って、森林を整備することが大切だ。」とも思いました。

午後からは、上田さんを中心に工具の整理と、林会長を中心にチルホールを使用したヒノキの伐採作業を行いました。伐採作業では、最初に林会長から伐採作業の基本の説明が行われ、広場の近くでチルホールの設置、ヒノキの伐採が行われました。チルホールはワイヤーとロープの調整がうまくいかず、最後は人力による作業となりましたが、安全に伐採ができました。しかし、ヒノキを伐採する作業、具体的には受け口を作る際のこぎりの使い方が、不慣れなこともあって時間がかかり、思ったように切れませんでした。「ある程度太い木を切る経験も必要だ。」と感じました。ただ、より安全な作業は何か、自分たちに合った作業は何か。を考えていくことは大切で、「今後も会員で考えていけたら。」と思います。

最後に一日体験の方や森なかまの二人から「参加して楽しかった。」「参加して勉強になった。」と言った感想を聞いて、本日の活動を終了しました。

(記 中佐 昌弘)

外部行事参加報告

宇治市地球温暖化対策推進パートナーシップ会議

(e c o t t 宇治) 令和五年度総会

日時 五月二十四日(水) 九時三十分～十二時

場所 宇治市職員会館大会議室

出席 新宮

(個人会員として 栗津 木曾 小林)

山城モデルフォレスト推進協議会

令和五年度総会

日時 五月二十九日(月) 十時～十一時三十分

場所 京都府宇治総合庁舎大会議室

出席 林 木曾

エッセイ

フォレストうじの活動に参加して

京都府立大学 森なかま

大澄 春翔

京阪宇治駅の帰りの電車の中で、今日の出来事を逐一思い出していた。それはフォレストうじの皆さんの柔和な雰囲気と、堅固な森林をこよなく愛する心根とが掛かり合った、楽しい時間だった。

朝礼でまず「よろしくお願ひします。」とあいさつをしたが、今日は僕の森なかまの一員としてのデビュー日だったので、表情は硬く緊張していた。僕は山道の見晴らしの良い休憩所でアレが起ころるまで、上手く自分から話しかけることが出来ずにいたのだった。

林会長から杖を貰ったのだ。会長の作った杖は太く長くて、重かった。「護身用です、モンスターが現れたら闘ってください。」と上田さんは真顔でいった。僕は苦笑したが、内心は嬉しかったのだ。その後も、むしり取った山椒やちぎり取ったキクラゲを僕にくれたが、僕は拒まなかった。

森林調査も終わりにさしかかり、僕らは大きなホオノキに出会った。一つの根っこから三つ叉に分岐したそれは重々しく量感に充ちていた。

「ほっほう。」と上田さんが言った。ほお。

この樹木には二十五周年記念の樹名板が取り付けられた。サークルの先輩の作った樹名板は、フォレストうじの皆さんも僕も気に入った。この樹名板が、灰白色の樹皮をより豊かにしている。そして、僕は束のように広がった葉の中心に、白い大きな花がついているのを見た。その横には珍しい柔らかな蕾もなっていた。とても綺麗だった。

「ホオノキもこの樹名板の設置を祝っているのですよ。」水野副会長が満足そうに言った。その通りだと僕も思った。

今後の活動・行事の案内

令和五年七月以降の予定です。ぜひ、ご参加ください。

七月定例活動

七月十六日(日) 天ヶ瀬森林公園

・天ヶ瀬森林公園の森林整備

・森の学習会

フォレストうじからのお報せ

地球温暖化防止の森林づくり活動に参加しませんか。ご興味のある方はフォレストうじ事務局までご連絡下さい。いっしょに緑豊かな森林公園にしましょう。

入会金 千円

年会費 二千元

活動日 毎月第三日曜日

活動場所 天ヶ瀬森林公園

☆ホームページは左のQRコードからご覧下さい。

森林ボランティア フォレストうじ

事務局

宇治市折居台二丁目一―五

木曾 宗統 方

TEL 〇九〇―九二七〇―〇七六三



編集後記

五月の活動では天ヶ瀬森林公園を二時間以上歩いた。若い緑から深い緑に変わりつつ、散策路も緑に覆われ、こんなにも緑が多かったのかと実感した。大きな葉から小さな葉、どれもこれも美味しい空気を放ってくれていた。

(会報担当 木曾 宗統)

(写真担当 新宮 邦春)

